

各 位

平成20年2月2日
近畿日本ツーリスト株式会社
ブランド戦略室 広報 担当：立花
(TEL：03-3257-1661)

旅行取扱状況の概観（平成19年12月分）

海外団体旅行では、学生団体は2桁増と取り扱い好調が続いたが、一般団体が前月から取り扱いを大きく減少させ前年実績を大幅に割り込んだため、合計では前年実績を下回り2ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。海外企画旅行は、ホリデイが取り扱いを伸ばし9ヶ月ぶりに前年実績を上回った。海外個人旅行は、海外航空券、その他クーポンの取り扱いが好調に推移し、合計では2桁増で5ヶ月連続の前年比プラスとなった。海外旅行合計は、団体旅行は低調であったが、企画旅行の堅調、個人旅行の好調により、前年比103.1%と前月に続いての前年比プラスと堅調に推移した。

国内団体旅行では、一般団体は取り扱いが増加し3ヶ月ぶりに前年実績を超えたが、学生団体が前月に引き続き取り扱いが低調で前年実績に達せず、合計では前年実績に僅かに届かなかった。国内企画旅行は、メイトの取り扱いが増加し、その他企画の取り扱いも依然好調で、合計では前年実績を超え好調に推移した。国内個人旅行では、宿泊券は好調な取り扱いであったが、JR券、航空券といった輸送関係の取り扱いが伸び悩み、合計では前年実績を大きく下回り2ヶ月ぶりの前年比マイナス。国内旅行合計は、団体旅行は伸び悩み、個人旅行は不振であったが、企画旅行の好調により、前年比102.5%と前年実績を上回った。

外国人旅行は、個人旅行の取り扱い好調が全体を押し上げ、前年比271.0%と前年から倍増の実績をあげ、6ヶ月連続の前年比プラスと好調を継続。

この結果、12月の総取扱額は前年比104.1%と前月に続いて前年実績を上回る結果で終わった。

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

一般団体は取り扱い件数の減少により前年実績を下回り低調であった。一方、学生団体は修学旅行および研修旅行等の取り扱いが好調で前年実績を大きく上回り、4ヶ月連続の前年比プラス。団体の方面別取り扱いでは、近場の台湾、香港、ミクロネシアおよびオセアニアの取り扱いが好調であった。

(2) 企画旅行

ホリデイの取扱いは、取扱額前年比102.8%、取扱人数前年比92.9%と久しぶりに取り扱いが増加し前年実績を上回った。ホリデイの方面別取り扱いでは、近場の韓国が好調で、台湾、リゾート関係でのインドネシア、ハワイも前年を超え堅調であった。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体は、その他団体の取り扱いが伸び悩み前年実績を下回ったが、イベント関係の取り扱いの好調により、合計では前年比プラスとなった。学生団体は修学旅行、修学旅行外の取り扱いが共に前年実績に達しなかった。

(2) 企画旅行

メイトは、取扱額で前年比106.8%、取扱人数で前年比102.5%と売上高は前月に続いて前年実績を上回った。商品別の状況では、スキーを中心した北海道および九州、沖縄、関西地区商品が好調で、東京地区商品はほぼ前年並みの取り扱いであった。

(以上)